

などに包まれて小粒子（エアロゾル）となって埃などととも2m以上、浮遊・飛散します。乾燥に強く、温湿度の変化に耐える結核菌や炭疽菌や多くのウイルス、特に呼吸器感染ウイルス、ハシカウイルス、風疹ウイルス、水痘ウイルスなどが空気感染をします。

2) 飛沫感染

咳やくしゃみに伴って病原体が病巣から分泌物や粘液と一緒になった飛沫や飛核となって飛散するため、患者に近い距離（2m以内）で感染します。空気感染と厳密な区別はできませんが、病原体では結核菌、抗酸菌、レジオネラ、インフルエンザウイルス、ノロウイルスなどが伝播されます。

3) 水系感染

環境水や人工浄化していない飲料水などが担体となって伝播します。上水道が完備されず、環境水や下水道が混流する地域では伝播

注3 Q熱(コクシエラ症)  
リケッチアの一種であるコクシエラ・バーネッティによる感染症。1930年代にオーストラリアで多発した。経気道感染する熱性疾患で、頭痛、筋肉痛、関節痛などを伴い、肺炎、肝炎、髄膜炎などの症状を伴う。2週間で症状は改善するが、一部では慢性へ移行して心内膜炎などを発症する。

表II-1 感染症経路別にみた主たる病原体・疾患

感染経路	伝播症経路の特徴	主たる疾患・病原体
空気感染	感染源から呼気により不特定多数に伝播、もっとも危険	ポリオ、結核、ジフテリア、トリインフルエンザ、ハシカ、風疹、流行性耳下腺炎、水痘、手足口病
飛沫感染	咳・痰などにより感染源から1～2m範囲内で伝播	SARS、インフルエンザ、風邪、マイコプラズマ肺炎、百日咳、ノロウイルス
接触感染	感染源へ皮膚・手指などで直接接触し、他人へ接触（ヒトが媒介）など	皮膚化膿症、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌、インフルエンザ、赤痢、腸管出血性大腸炎、ノロウイルス、ヘルペス、若年性いば、表皮真菌症
糞口感染	感染者の糞便を経口摂取する（環境循環を含め）、水系感染	コレラ、赤痢、腸管出血性大腸炎、腸チフス、パラチフス、ノロウイルス
媒体物感染	食物、食器、タオルなどを介して	A型肝炎、E型肝炎、ポツリヌス、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌、流行性結膜炎、細菌性およびウイルス性食中毒
動物媒介	イヌ、ネコ、家畜、実験動物など	Q熱 <sup>注3</sup> 、狂犬病、炭疽、野兔病、オウム病、腎症候性出血熱
蚊媒介	地域特有および季節的	黄熱、マラリア、デング熱、日本脳炎、各種脳炎
ノミ、ダニ媒介	野生温血動物に寄生、森林・野原などに分布し、ヒトへ接触・吸血	ペスト、ツツガムシ病、日本紅斑熱、発疹チフス、ライム病、クリミア・コンゴ出血熱、アルゼンチン出血熱、熱性血小板減少症候群
輸血・性行為感染	粘膜接触、輸血・血液製剤、性行為	B型肝炎、C型肝炎、後天性免疫不全症、淋病、梅毒、性器ヘルペス症、性器クラミジア、コンジローマ
院内感染	閉鎖空間内で病原体の密度が高く、濃厚感染がおこりやすい	日和見感染症、薬剤耐性菌感染症、呼吸器感染症、消化器感染症、泌尿器感染症、敗血症
垂直感染	妊産婦から胎児、新生児へ感染	風疹、トキソプラズマ症、淋病、梅毒、B型肝炎、後天性免疫不全症
医原性感染	手術、医療機器など人為的に媒介	肺炎など呼吸器感染症、泌尿器感染症、敗血症
	感染した移植臓器	プリオン、HIV、B型肝炎
土壌・環境水	留置カテーテル、自家感染症	膀胱炎、敗血症、肺炎
	皮膚外傷や塵芥・飛沫など	レジオネラ症、破傷風、炭疽

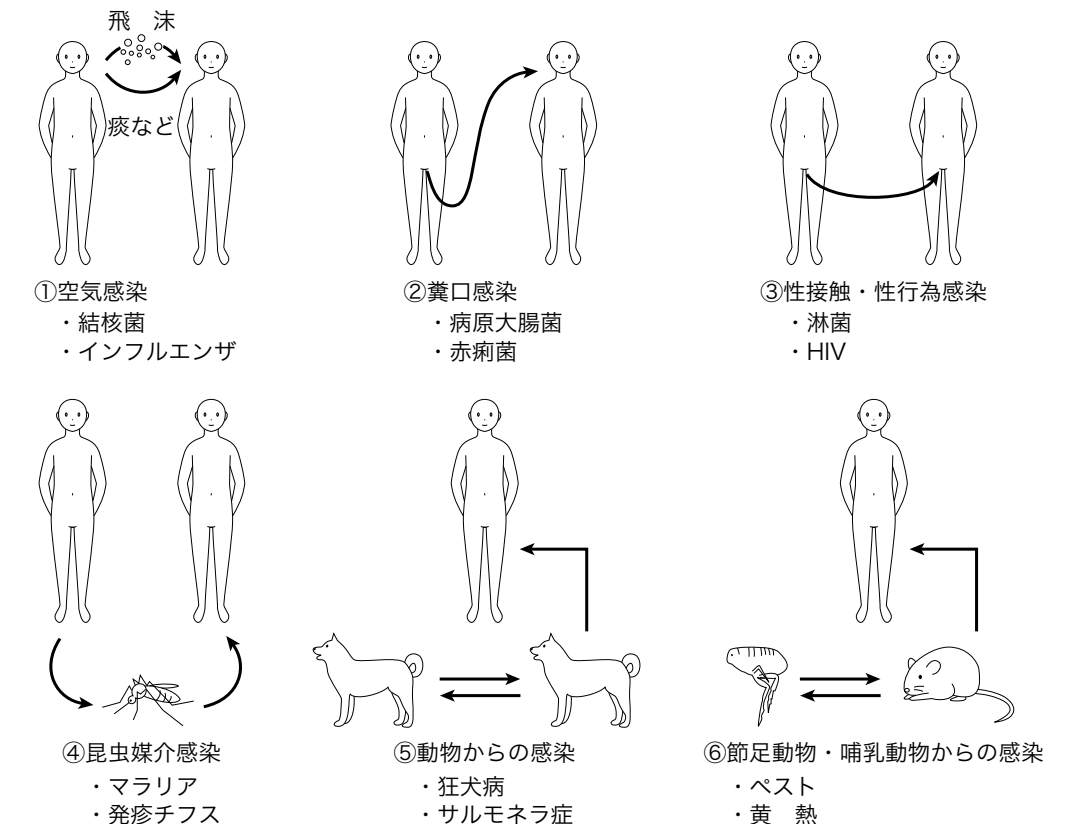
範囲が広くなり、集団感染や汎流行をおこす可能性があります。食品媒介と厳密な区別はできませんが、水系感染は流行範囲が広く、コレラ菌、腸チフス菌、サルモネラ菌、赤痢菌、腸炎ビブリオ菌、大腸菌、カンピロバクター、レジオネラ、ポリオウイルス、腸管ウイルス、A型肝炎ウイルス、アメーバ赤痢菌、ジアルジア、クリプトスポリジウム、ランブルギョウチュウ、レプトスピラなどが伝播されやすい病原体です。

4) 食品媒介感染

病原体が付着した食物を食べることで感染します。調理中に混入・付着させることが多いため、調理や盛り付け、包装などの衛生管理を徹底すればこの感染症経路は遮断できます。サルモネラ、カンピロバクター、腸炎ビブリオ菌、赤痢菌、ウエルシュ菌、黄色ブドウ球菌、ポツリヌス菌、溶血性連鎖球菌、各種大腸菌、エルシニア、セレウス菌などの食中毒起因菌は食品に付着し伝播されます。

5) 動物媒介感染

ハエなどが機械的に病原体を付着して媒介伝播するのではなく、野生動物やペットなどに寄生している病原体を、吸血昆虫である蚊、ノ



図II-2 感染症経路